

2026_秋号のトピックス

連日酷暑が続いておりますので、熱中症にはくれぐれもお気をつけください。
環境部員も万全の対策を講じ、安全第一で現地調査を進めております。
さて、西技環境ニュース 2026_秋号では、下記トピックスをご紹介します。

- ✓ 守るから「回復」へ！ネイチャーポジティブ最前線
- ✓ 環境部の主な業務内容（2026 年度）
- ✓ 治水×ネイチャーポジティブの河川設計



毎日暑いですが稲穂が色づき始めました

守るから「回復」へ！ネイチャーポジティブ最前線

近年、「ネイチャーポジティブ」という言葉が国内外で大きな注目を集めています。これは、単に自然環境への負荷を減らすだけでなく、2030 年までに生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せることで、豊かな生態系を次世代へ引き継ぐことを目指す考え方です。

今回は、このネイチャーポジティブに関する動向や環境部の取組についてご紹介します。

【昆明・モンテリオール生物多様性枠組】

本枠組は、2022 年の生物多様性条約第 15 回締約国会議（COP15）において採択された、2030 年までの新たな世界目標です。

過去の成果や教訓を踏まえ、2050 年までの「自然と共生する世界」の実現に向け、2030 年までに生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」の達成を目指しています。

【生物多様性国家戦略 2023-2030】

上記の世界目標を受け、国内では 2023 年 3 月、「生物多様性国家戦略 2023-2030」が閣議決定されました。5 つの基本戦略が掲げられ、特に「ネイチャーポジティブ経済の実現」は、企業活動や金融、投資など経済活動全体を変革していく重要な柱として位置付けられています。

【ネイチャーポジティブ経済移行戦略・ロードマップ】

ネイチャーポジティブ経済の実現に向け、2024 年 3 月、環境省、農林水産省、経済産業省、国土交通省の 4 省庁が共同で「ネイチャーポジティブ経済移行戦略」を策定しました。本戦略では、生物多様性の保全を単なる環境対策にとどめず、自然資本に根ざした「新たな成長機会」として位置付けています。

この戦略を受け、環境省は 2025 年 7 月に具体策となる「ネイチャーポジティブ経済移行戦略ロードマップ（2025-2030 年）」を発表しました。

本ロードマップは、企業が自然資本を活かした経営に移行し、情報開示を通じて企業価値と地域価値の向上を結びつける「好循環」の創出を目指すものです。その実現に向け、「企業と地域の価値向上」「自然資本の可視化と資金循環」「国際競争力の強化」という 3 つの視点を掲げています。

【グローバルネイチャーポジティブサミットと「熊本宣言」】

2026 年 7 月 14 日～15 日、熊本市で開催された「グローバルネイチャーポジティブサミット」において「熊本宣言」が採択されました。本宣言は、2030 年までの自然損失の抑止と 2050 年までの完全回復という国際目標に向け、行動の加速を呼びかけています。また、ネイチャーポジティブ経済への移行を「コスト」ではなく「投資」と位置づけ、政府や企業、市民など社会全体で連携する必要性を訴えており、企業や金融機関、NGO など 85 団体が賛同しています。



環境省 HP 内容を基に Gemini Notebook にて作成

ネイチャーポジティブ経済移行に向けた3つの視点

1 企業と地域の価値向上	2 自然資本の可視化と資金循環	3 国際競争力の強化
自然共生サイトやランドスケープアプローチを通じ、企業が地域と連携し自然資本の保全に貢献することで、企業価値と地域の活性化を同時に実現	TNFD等に基づく情報開示を促進して自然の価値を市場に反映させ、金融機関等によるネイチャーファイナンスを拡大し、ネイチャーポジティブ経営への資金の好循環を生み出す	産官学が連携し、サプライチェーン全体の持続可能な調達を推進 日本の優れた技術を活かして国際的なルール形成を主導し、日本企業の競争力強化を図る

環境省 HP 内容を基に Gemini Notebook にて作成



ネイチャーポジティブポータルサイト



昆明・モンテリオール生物多様性枠組



生物多様性国家戦略



ネイチャーポジティブ経済移行戦略



グローバルネイチャーポジティブサミット



裏面に環境部の取組を記載！

環境部の主な業務内容(2026 年度)

2026.8 時点での主な業務内容は、以下のとおりとなっています。

官公庁事業関連（国内）		官公庁事業関連（海外）	
国交省	遠賀川水系自然再生事業モニタリング調査業務 遠賀川水系水辺現地調査（両生類・爬虫類・哺乳類）外業務 知古地区外護岸詳細設計業務 六角川・牛津川湛水池モニタリング調査外業務 耶馬溪ダム・平成大堰フォローアップ評価検討業務 川辺川環境データ活用推進等業務 大淀川・小丸川河川水辺環境調査（基図・底生）業務 宮崎海岸モニタリング環境調査・分析検討業務	JICA	インドネシア国有地熱発電事業者の新規開発地点に関する情報収集・確認調査 ジブチ国地熱開発試掘プロジェクト掘削監理
		PT.PLN	インドネシア国ウロンブ・マタロコ地熱発電プロジェクト業務
		民間事業関連	
		環境調査 予測評価 対策検討	ダム水質や通砂事業に伴う環境調査・解析、水質解析検討、工事に伴う騒音・振動・動植物調査、予測 など
福岡県	国道322号香春大任バイパス水文調査業務委託（東山工区）（〇〇県債） 国道322号香春大任バイパス水文調査業務委託（黒中1工区）（〇〇県債）		
佐賀県	肥前呼子線道路橋りょう調査委託（環境影響評価）	環境影響評価	陸上風力発電所・地熱発電所新設に係る環境影響評価、火力発電所建設に係る騒音調査業務 など
宮崎県	耳川水系総合土砂管理計画の評価・改善に関する業務	法 条 例	
鹿児島県	和泊町 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）改訂業務	自 主	工事に伴う環境調査、開発に係る植物調査 など

治水 × ネイチャーポジティブの河川設計

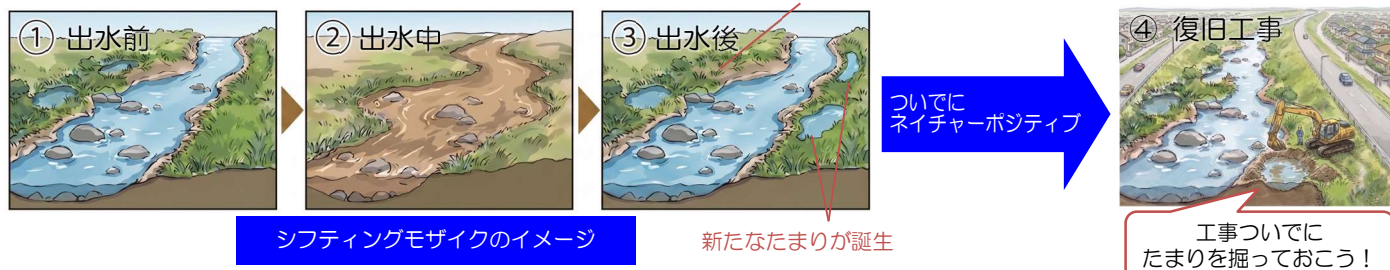
環境部は土木本部と共同で、頻発する豪雨災害に対応する流下能力の確保（治水）と、2030 年までの生物多様性回復を目指すネイチャーポジティブの実現を両立させる「ネイチャーポジティブ河川設計」を進めています。

取組の中から、今回はネイチャーポジティブ河川設計に関するキーワードを二つご紹介します。

【シフティングモザイク】

川に堤防がある風景は、今や当たり前のように見られます。しかし、本来は平野を流れる川には固定化された堤防はなく、大きな出水のたびに形を変え、様々な場所にワンドやたまりなどの環境が生まれては消える営みを繰り返してきました。このように多様な環境がモザイク状に形成・更新される状態をシフティングモザイクといい、このような環境には氾濫原を好む多様な生物が生息・生育していたと考えられます。このため、環境変化が生じにくくなった現代の河川では、シフティングモザイクの回復を促すことが重要です。

では、具体的にどのように実現するのか。その鍵となるのが**ついでにネイチャーポジティブ**という考え方です。河川工事の際に水際へ小規模なワンドやたまり、凹凸を創出し、多様な生物の生息・生育環境を形成する。こうした取組を流域全体で積み重ねることで、多様な環境が形成と更新を繰り返すシフティングモザイクの回復につながることを期待されます。



【額縁掘削】

川岸の堆積土砂を掘削する際に、縁を残してその内側を掘る方法で、形状が額縁のような掘削方法です。

額縁掘削には次のメリットがあります。

- ① 水中は工事をしないため、瀬や淵等の流れの多様性が維持される。
- ② 水際は工事をしないため、水際植物やそこに生息する水生生物が守られる。
- ③ 掘削された縁の内側に湿地が形成され、氾濫原を好む多様な生物の生息・生育環境が創出される。

この形状はやがて土砂堆積や出水による攪乱等によって徐々に消失し、シフティングモザイクの一過程となります。



本頁に掲載した図は、Gemini にて作図しました。

【治水 × ネイチャーポジティブの実現】

ネイチャーポジティブを提案することは簡単です。しかし、現地の様々な制約条件の中でこれを実現するためには、環境の専門家と設計の専門家が協力し、多くの課題を解決していく必要があります。弊社では、これまで蓄積してきた経験と最新の知見を基に、治水 × ネイチャーポジティブを具現化する設計技術の提案を行っています。

ネイチャーポジティブは、世界共通で目指すべき重要な目標です。皆様とともに持続可能な地域づくりを進め、豊かな自然を次世代へつなげるよう、環境部一同、今後も技術力の向上に努めてまいります！